

UNIRITA

Magazine

ユニリタマガジン

1

2018

特集

ユニリタグループから
新年のご挨拶

業務課題解決ソリューション

帳票や書類を
安全に公開できていますか?
公開者・受信者の悩みを解決!
あなたに代わって安全かつ確実に
お客様へお届けします

製品&サービス最新トピック

サービス要求プロセスに対応した
LMIS on cloud Ver2.4をリリース

システム管理者の会

新年から、各種セミナー開催!!
リーダーズミーティング/
アップデートミーティングのご紹介

UNIRITAユーザ会

UNIRITAユーザシンポジウムは
1月中にお申し込みください

ユニリタプラス

満員御礼
第8回Waha!コミュニティ開催報告

パートナー様ご紹介

アライズイノベーション株式会社
人工知能 (AI) を活用した
文字認識 (OCR) ソリューション「AIRead」

ユニリタ
イメージキャラクター
ホラン千秋



明けましておめでとうございます。

旧年は、社会的課題として「働き方改革」がクローズアップされました。業務の効率化による労働生産性の向上や、柔軟な働き方を実現する取り組みとして、リモートワークの環境整備や業務ツールのクラウド化、モバイルデバイス利用の拡張など、「働き方改革」の実現にITが大きな役割を果たすことを実感した一年でした。一方で、セキュリティ対策の強化やIT人材の不足など新たな課題が顕在化してきた年でもありました。

また、「デジタル変革」への取り組みも本格化し、ビッグデータやIoT、AIなどのデジタルテクノロジーが、既存の産業構造の変革を促し、企業の競争環境を塗り替えつつあるように感じております。不確実で変動の激しい状況下、企業はこれまでの枠を超える「生産性」や「柔軟性」「新たな価値の創造」が求められており、ITベンダーの社会的な役割はますます重要になると考えております。弊社グループの強みは、業務の効率化や省力化を目的とする「守りのIT」領域と、経営変革を実現するための「攻めのIT」領域の双方を充足するパッケージソフトウェアをベースにしたソリューション力です。

本年は、情報システム部門と事業部門との共創の実現に向けて、ユニリタのクラウド事業の中核であり、最新のデジタルテクノロジーを活用できる「Smart Communication Platform」(※図1)の拡張を始め、ビジネス変革を加速させる新たな事業やサービスの創出を支援する「コンサルティングサービス」の拡充、さらには、お客様の業務課題を直接解決するためのソリューションを積極的に展開してまいります。そしてパートナー企業様との連携による「ユニリタエコシステム」(※図2)でおお客様の「働き方改革」と「デジタル変革」を支援してまいります。

本年が皆さまにとりまして、実り多き一年となることをお祈り申し上げて、年賀のご挨拶とさせていただきます。

図1 「Smart Communication Platform」

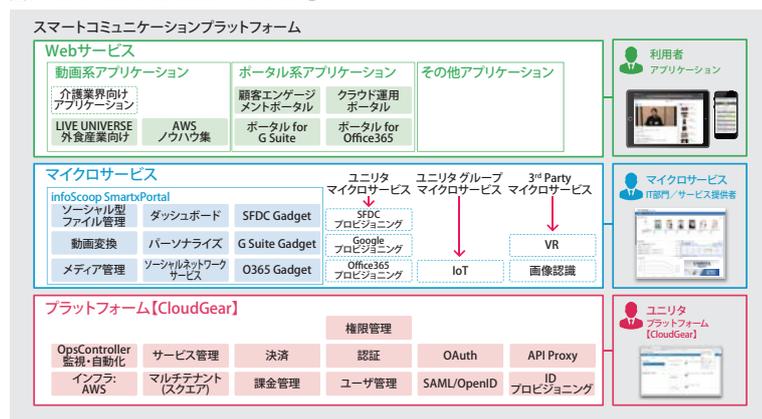


図2 「ユニリタエコシステム」



株式会社ユニリタ
代表取締役 社長執行役員
北野 裕行

ユニリタグループから 新年のご挨拶

UNIRITA GROUP

ユニリタグループでは、
「攻めのIT」と「守りのIT」の事業領域を強みに、
デジタル変革でお客様のビジネスイノベーションを
支援してまいります。

ASPEX 株式会社アスペックス

新年、明けましておめでとうございます。

弊社は勤怠管理を中心とした様々な業務特化型SaaSを提供しており、ユニリタグループとして18期の会社になります。昨年は、Web給与明細、手書き勤務表データ化、ストレスチェックサービスを本格的に販売展開し、おかげ様で多くのお客様からご好評いただきました。

成年である今年は、「Dog Year」のスピードで、弊社のサービス群に更に磨きをかけ、また、新たなサービスやオプションも追加しながら、お客様の更なる業務効率の向上に役立てていただける「ワン」ランク上のクラウドサービスの拡充を図ってまいります。



代表取締役社長
吉田 一也



株式会社 データ総研



代表取締役社長
堀越 雅朗

明けましておめでとうございます。

弊社は、創立以来30余年にわたり、業務とデータの可視化による改善と、それを支えるデータマネジメントを追及してきました。

近年、データ駆動経営、AIなどの動きが加速しています。いずれもデータの活用がカギです。今後は、さらにデータが武器として注目され続けることが想定されるため、

- ① データを武器にする方法を考える
- ② 該当分野の業務とデータの関連を整理しデータの所在や意味を明らかにすることが重要です。

弊社は、これらもこれらをご支援させていただくと同時に、ビジネスや業務の変革・改善のためのデータ関連技術とサービスを発展させ提供してまいります。

BITIS 株式会社ビーティス

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年中はひとかたならぬご高配にあずかりまして、誠にありがとうございました。

弊社はユニリタグループとして「The BCP Company」を企業スローガンにIBM i(AS/400)の二重化環境(HA)の構築を主力事業としてまいりました。現在ではITの二重化という限られた範囲だけではなく、会社全体のBCP、更には地域社会を継続させる為のICTを活用したサービス、それを「SCIP(Society Continuity Planning)」と名付け、新たな挑戦を始めています。

本年は「企業の事業継続」だけではなく、皆様の社会生活にお役に立てるサービスの提供にスピード感を持って取り組んでまいります。



代表取締役社長
佐藤 仁

BSP 株式会社 ビーエスピーソリューションズ

BSPOSOL

新年明けましておめでとうございます。

昨今、デジタルビジネスやデジタルトランスフォーメーションといった、「攻めのIT」が叫ばれ、企業のITによるビジネス拡大の機運も高まっています。

弊社でもこれまでの情報システム部門だけでなく、デジタルビジネスを担う事業部をご支援する機会も増えました。また、これまでシステム運用の道具だと思われていたITサービスマネジメントですが、実際に弊社がご支援したデジタルビジネスの事業においても、その有効性が確認されています。この手法を弊社独自の「D-SMS」としてまとめ、ご提供を開始いたします。

「攻めのIT」「守りのIT」双方の場面で、ITサービスによるお客様のビジネス拡大をご支援してまいります。

※:D-SMS(Digital Service Management System)は次号のビジネスコラムにおいて詳細な内容をお知らせいたします。



代表取締役社長
藤原 達哉

BSP 備実必(上海)軟件科技有限公司

BSPOSOL

新年明けましておめでとうございます。

旧年は大変お世話になりました。

BSP上海は2007年に設立したユニリタのグループ会社で、上海をベースに中国全土への自社製品「Waha! Transformer」、「A-AUTO」の販売・サポートを行っております。

変化の激しい中国市場で現地のニーズに合わせたソリューションを提供し、市場開拓を進めております。

本年は、中国市場向けのソリューションをもっと創造して、幅広くユニリタ製品を中国のお客様にご活用いただけるように邁進いたします。

末筆ではございますが、皆様の会社のさらなる発展を祈念申し上げます。



總經理
巴音 都仁

UNI TRAND 株式会社ユニ・トランド

新年明けましておめでとうございます。

日本においては少子高齢化が進み、2050年には現在よりも約3,000万人近く人口が減少すると予測され、同時に都市化も進み地方の人口減少はさらに深刻となってきています。

弊社は、地域の足である公共交通の活性化こそが街の活性化に繋がるという信念のもと、ICTを利用し公共交通の利便性を高め、最先端のIoT技術により収集した様々なデータを重ね合わせ人工知能を積極的に活用し、課題解決とともに街づくりの活性化を支援してまいります。

さらに、本年は海外展開も視野にいれており、日本でのノウハウをアジア各国における交通課題の解決に活用できればと考えております。



代表取締役社長
高野 元

ユニリタプラス UNIRITA+ 株式会社ユニリタプラス

明けましておめでとうございます

弊社は昨年4月にユニリタの西日本事業部を分離独立し、西日本地域のお客様への製品やサービスを提供する会社としてスタートしました。

いまITを取り巻く環境は大きく変化し続けております。従来の基幹システムの安定運用(コンプライアンスやセキュリティ強化)と経営に直接的に貢献するITシステム構築といった、情報システム部門にとって多くの業務課題が存在しています。

今年2年目を迎えるにあたり、弊社はユニリタ及びパートナー企業様と連携し、よりお客様の立場になって考え、サービスプロバイダーとして最適なソリューションを提供してまいります。西日本地域のお客様の業務課題解決に貢献できるよう、社員一同取り組んでまいります。



代表取締役社長
増田 栄治

本年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。

帳票や書類を 安全に公開できていますか？ 公開者・受信者の悩みを解決！ あなたに代わって安全かつ確実にお客様へお届けします

日常のビジネスシーンにおいて、オフィス文書や社内帳票、取引先への文書を電子メール（以下：メール）の添付データやファイルサーバなどを経由して共有されています。

最近ではネットワーク環境の改善により、メールでもサイズの大きなデータの添付が可能になり、気軽にやり取りができるようになってきました。ファイルサーバもストレージの容量が飛躍的に増え、管理するファイル数も格段に増えています。

しかしながら、メールやファイルサーバを用いた文書共有や文書公開には、公開する側と受信する側の相互に課題があるのをご存知でしょうか。本稿では、文書共有・公開における課題を提起し、その解決策をご紹介します。

➡ メールによる電子文書やりとりの落とし穴

企業で利用される電子文書(以下、文書)は、個人情報や機密性の高い文書を取り扱っている場合が多く存在します。それらの文書を社内やお客様と共有する際、その手段として一番身近なツールがメールです。メールを有効活用し、タイムリーな情報共有を実現することで、ビジネススピードを向上させることができます。

例えば、お客様から寄せられた問い合わせに対し、メールやSNSなどのコミュニケーションツールを使い、対応のスピードと品質を向上させ、ビジネスの機会を増やそうとする取り組みはどの企業でも行われているのではないのでしょうか。

一方で、文書をメールでやり取りする場面では、メール送信時に添付文書の誤送信から情報が漏洩する可能性があり、重大事故が発生すれば企業の社会的信頼を失う危険があります。

このような情報漏洩に関するセキュリティの問題だけでなく実際の業務で利用する際にも、注意しなければならない課題が文書を公開する側(送信する側)、受信する側の双方に存在します。

➡ 文書を公開する側の課題

文書を公開する側の課題には、前述のメールによる配信ミスだけでなく、社内のポリシーによって定められた添付文書のサイズ上限があり送信できないこともあります。また、添付文書のチェック機能やスパムメール対策により、相手にメールが届かないケースも多発しています。

さらに、何度か文書のやり取りをするうちに、最新版ではない文書に更新をかけて送信してしまうケースや、日付や時間をファイル名に用いた文書の版管理を手動で行うことで、作業が煩雑となり、事故を誘発する原因になります。

➡ 文書を受信する側の課題

一方で、文書を受信する側では、メールで受信した文書はどのように管理されているのでしょうか。担当者の個人PCに保管されていたり、メールで送付された文書を命名規約がない状態でファイルサーバに溜めているといったケースが多いのではないのでしょうか。また、文書のやり取りを重ねていくうちに、古い文書や誰も参照していない文書が個人PCやファイルサーバに大量に存在しているのが現状です。

その結果、最新文書の検索に膨大な工数がかかり、業務効率の低下を招いてしまいます。

➡ 何を改善すれば解決するか

文書を作成して、送信する側の課題を解決するだけでなく、文書を受信者が安全に受け取り、活用できるように仕組みを改善することによって業務の効率化を図ることができます。(図1)

メールでやり取りする文書と、ユニリタの新しいソリューション「UNIRITA Share E-DOC」を組み合わせることによって、文書を公開する側・受信する側の相互の課題を解決し、よりスムーズでセキュアな文書管理の運用を実現することができます。

➡ 「UNIRITA Share E-DOC」の特徴

文書管理の自動化や他のソリューションとの連携によるクラウド化など、「UNIRITA Share E-DOC」にはさまざまな特徴があります。それらの特徴により文書管理を改善することで、文書公開の課題を一気に解決することができます。

図1:「UNIRITA Share E-DOC」の導入効果

大容量ファイルの
スムーズな取扱い

大容量のファイルを登録し、登録URLを送信することで、メール添付の際の容量制限に触れることなく、相手側に登録文書を送ることができます。

文書公開
プロセスの改善

文書管理プロセスを自社で構築・管理・運用できるため、安全で確実に文書を公開できます。

文書管理
運用の効率化

文書管理運用はすべて「UNIRITA Share E-DOC」上で管理されるため、担当者の異動などによる引き継ぎもスムーズにできます。

帳票生成と
文書管理の両立

帳票自動生成サービスと連携することで、基幹システムや業務アプリなどから出力される帳票も一元管理することができます。

版管理の
省力化

文書の版管理を自動で行うため、最新版の管理を容易に行えます。過去分の文書についても参照することが可能です。

承認された
文書の公開

承認機能があるため、関係者の承認後に文書を公開することができます。

特徴① 強固なセキュリティ

文書は暗号化されているため、第三者によって意図的に参照されることはありません。また、操作ログを記録し、文書の格納から取り出しまでの処理単位で実績管理を行うことができます。

特徴② 「雲票」との連携

ユニリタが提供する帳票クラウドサービス「雲票」(オプション)との併用で、帳票文書の生成、仕分け、印刷、配信などの完全自動化を実現することができます。「雲票」とは文書データの仕分け処理を行ったうえで、利用者向けの文書を作成し、印刷から配送または電子配信を行うクラウドサービスです。「雲票」との連携により、帳票出力後特有の、印刷、封入封緘、配送といった作業をアウトソースできます。

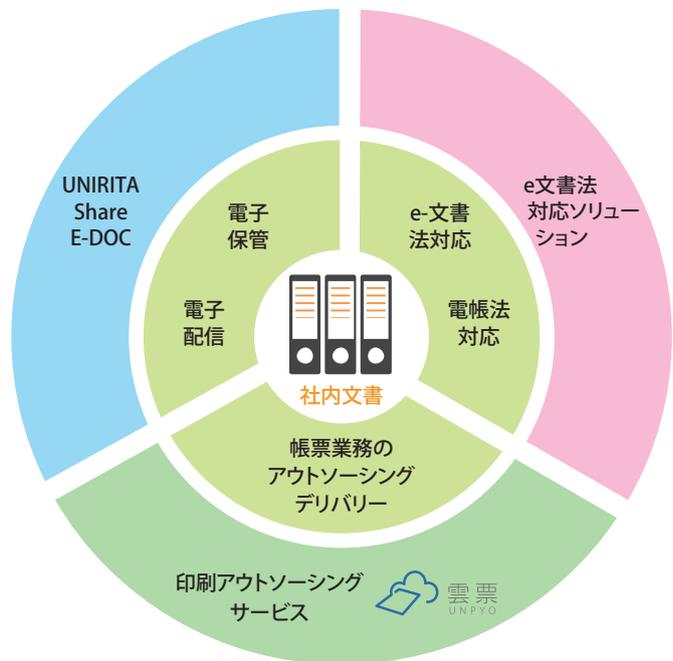
特徴③ 複数人での文書作業に最適

複数人で文書を共有して作業をする場合に必要機能として、作成履歴や最新版が分かりやすい文書の版数を自動的に管理することができます。そのため、同じ部署内での文書管理の効率化を実現することが可能となります。

さらに「雲票」を起点とする「印刷アウトソーシングソリューション」や「e-文書法対応ソリューション」などと組み合わせることにより更なる業務効率化やコスト削減を期待することができます。(図2)

ユニリタでは「UNIRITA Share E-DOC」を提供し、お客様の業務改善や働き方改革を支援してまいります。

図2:「UNIRITA Share E-DOC」とソリューション連携



担当者紹介



プロダクト事業本部
販売支援グループ
グループリーダー
森脇 真吾

サービス要求プロセスに対応した LMIS on cloud Ver2.4をリリース

「LMIS on cloud」は、サービスデスク機能を中心としたITサービス全体を適切に管理する仕組みを、クラウド上に構築した日本初のサービスです。ITサービスマネジメントのベストプラクティスであるITILに準拠しており、インシデント管理や問題管理を始めとする各ITILプロセスの管理機能を提供しています。Ver2.4では新たにサービス要求プロセスに対応し、より柔軟な管理ができるようになりました。

サービスデスクがユーザから受ける問い合わせは、その内容によって「障害」、「サービス要求」、「QA」などに分類され、インシデント管理活動の中でそれぞれ処理されています。しかし、企業の中でさまざまな業務のデジタル化が進み、ITシステムが巨大化・複雑化していくにつれて、サービスデスクが受けるサービス要求は、これまでよりも幅広く多岐にわたるものになっています。

「サービス要求(要求実現)」とは広義ではインシデントの一種といえますが、ITIL/V3からはインシデント管理から切り出されるようになりました。定義としては「正常なITサービスの妨げにならないITサービスの使い方などに対する標準的な変更を求めるユーザからの要求」です。わかりやすくいうと

低リスク

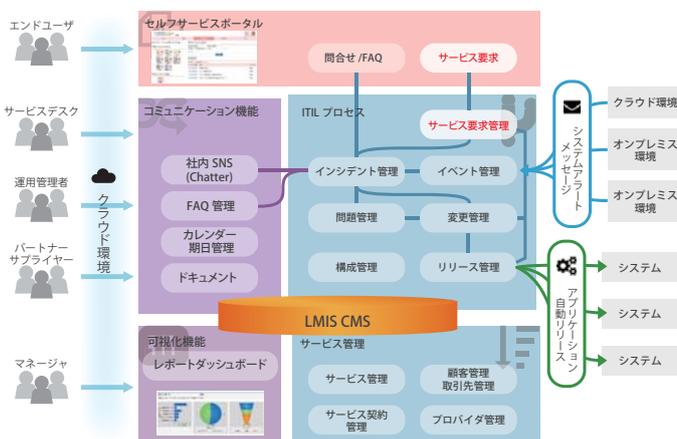
発生頻度が高い

低コスト

である小さな変更で、具体例としてはパスワードのリセット申請やスマートフォン利用申請などの定型的なユーザからの依頼となります。

「LMIS on cloud」のVer2.4では、従来はインシデント管理プロセスの中で管理していた「サービス要求」を、障害対応などの問い合わせから独立したプロセスとして追加しました。これにより、パスワードのリセット申請などの定型のかつユーザからの多種多様な申請対応を一気に効率化します。

これまでの「サービス要求」をインシデント管理の一つとして処理をした場合は、定型的な処理と非定型的な処理が同居していましたが、「サービス要求」を独立させたことによりワークフロー処理がシンプルになり、導入およびメンテナンスのコストが削減できます。さらに、機能強化されたエンドユーザ向けのオプション「セルフサービスポータル」と組み合わせることで、サービス要求プロセスの最適化を実現し、顧客満足度も大きく向上させることができます。



LMIS on cloudの管理プロセス

サービス要求プロセスによる主な効果

■ 定型的なサービス要求プロセスを最適化することによって受け付けからクローズまでの時間を短縮します

■ 受け付けた内容によってインシデント管理や変更管理へエスカレーションできます

■ 現行の業務にマッチさせるコンフィグレーションが低コスト・短期間でできます

■ KPI(重要業績評価指標)を効果的に設定および運用できます

■ 申請内容に適した承認フローによってサービス品質を向上させます

今回追加されたサービス要求プロセスは、「LMIS on cloud」本体のオプションである、セルフサービスポータルからも起票することができます。

エンドユーザはセルフサービスポータルを利用することでサービス要求の起票、状況および結果の確認を手元の端末で簡単に実施できます。

また、インシデント管理など他の管理プロセスと同様に、関連情報エクスプローラ機能を使用して、サービス要求と関連する他プロセスやCI(構成情報)との関係を、連結されたアイコンにより視覚的に確認できます。

申請者側の利便性も向上

■ 承認経路表示機能の強化

セルフサービスポータルで起票された申請や問い合わせのフロー処理状況の可視化を実現し、定義された承認ルートに、承認依頼状況、承認者および承認日時、承認進捗のステータスなどが表示されます。承認がどこまで進んでいるのかなど、承認者や代理承認者によって承認または否認された状況を素早く確認することができるようになりました。



■ フォーム一覧の表示方法の追加

セルフサービスポータルの申請や、問い合わせフォーム一覧の表示方法として、従来のアイコン形式に加え、リスト形式が追加されました。リスト形式の表示では折りたたみが可能になるため、多くの種類の申請書がある場合は、階層化・グループ化された申請書群より目的の申請書フォームに素早くアクセスできます。

詳しくは弊社担当までお問い合わせください。

担当者紹介



デジタルサービス本部
ITサービスマネジメント部
開発グループ
グループリーダー
長岸 厚司

新年から、各種セミナー開催!! リーダーズミーティング/アップデートミーティングのご紹介

システム管理者の会は、さまざまな人財育成活動を実施しています。
今回は、開催ごとにテーマを設定して参加者の気づきを促す「リーダーズミーティング」と「アップデートミーティング」をご紹介します。

第12回リーダーズミーティング：1月24日(水)開催

リーダーズミーティングは、組織メンバの教育を先導するリーダ層向けに、メンバ育成課題に対する解決への情報共有や議論を行ったり、自らも継続して学習する機会を得ていただいたりすることを目的とするセミナーです。

今回は、ITサービス化が広がる中で、ますます事業貢献が求められるシステム部門に向けて、「ITIL」で理解したいITサービスと事業貢献」と題して、沢渡あまね氏をお招きし、講演とグループワークを予定しています。沢渡氏は業務改善・オフィスコミュニケーション改善士として、コンサルティングやさまざまな媒体での執筆活動に取り組まれている方です。

リーダ層や部門長をターゲットとしたどなたでも参加いただけるセミナーです。システム管理者の会の活動に関心がある方は、この機会にぜひともご参加ください。



講演者 連載情報



運用のお仕事の苦勞や醍醐味って？
価値ある運用者になるためには？
謎の妖精「運命☆ちゃん」が体当たり
でお伝えする漫画を連載中です！

出典：株式会社リクルートキャリア

「CodeIQ」
(<https://codeiq.jp/magazine/category/investment/>)

第10回アップデートミーティング：2月15日(木)開催

アップデートミーティングは、「システム管理者認定講座」の合格者に向けて、合格後のフォローアップとして開催しているセミナーです。

今話題の「RPA」をテーマに、No.1 RPAサービス「BizRobo!」でおなじみのRPAテクノロジーズ株式会社をお招きして「システム運用の自動化」について踏み込んで勉強したいと思います。

2018年も積極的に活動してまいります。ご期待ください！

詳しいセミナー情報と
お申し込みはこちら

<http://www.sysadmingroup.jp/seminar/>



UNIRITA ユーザ会

UNIRITAユーザシンポジウムは1月中にお申し込みください

ユーザ会活動の1年間の総決算として開催しております、

UNIRITAユーザシンポジウムの開催まで残り2ヵ月を切りました。

昨年12月には、各地域で全体会が開催され、発表に向け研究会グループ活動の追い込みに熱が入ってまいりました。

研究グループメンバは発表を通じて、自身の会社を代表として研究してきた1年間の成果と成長を実感する場となります。また、上司の方は部下の成長をその場で確認できる貴重な機会となります。

研究発表以外にも、日常では体験できない刺激的なセッションを設けております。

この機会に、上司の方とメンバの方、併せてのご参加はいかがでしょうか。

お申し込みは、Webサイトより受け付けております。

1月31日までは「アーリーバード割引価格」でご案内しておりますので、ぜひとも1月中にお申し込みください。福岡で皆さまにお会いすることを楽しみにしております。



開催案内 1月は各地でITフォーラムを開催しています

ITフォーラムは、旬な話題をテーマとした発表者によるプレゼンテーションと、ご来場いただいた皆さまとのディスカッションを通じた、情報提供と問題提起の場として開催しています。

西日本は、ネクストウェア株式会社より「ブロックチェーン」「ビッグデータ」「AI」を取り上げ3部構成の講演を行います。

東日本は、「RPA」をテーマにリコージャパン株式会社より「働き方改革における業務自動化の取り組み～RPA活用事例紹介～」として事例紹介や効果的な活用方法をご紹介します。

イベントスケジュール

第42回 西日本ITフォーラム	2018/1/12 (金)
第50回 東日本ITフォーラム	2018/1/26 (金)
第35回 UNIRITAユーザシンポジウム	2018/3/1 (木)～3/3 (土)

ITフォーラムは、UNIRITAユーザ会の活動をお気軽に体感いただけるよい機会です。お申し込みをお待ちしております。

詳しいセミナー情報と
お申し込みはこちら

<http://www.uniritauser.jp/>



ユニリタ プラス

満員御礼 第8回Waha!コミュニティ開催報告

ユニリタプラスでは、製品をご利用・ご検討いただいているお客様を対象に、「製品について&お客様同士を知っていただくこと」を目的とし、製品ごとに半期に一度コミュニティを開催しております。今秋大阪では「A-AUTO」、「Waha! Transformer」、「LMIS on cloud」のコミュニティを開催いたしました。2017年11月14日(火)開催のWaha! コミュニティでは、10社16名のお客様にご参加いただきました。

お客様活用事例の発表

当日は、「Waha! Transformer」を利用している業務や導入効果に関する事例を第一工業製薬株式会社山本様に発表いただきました。他社がどのように製品を使用しているのかを知る機会はありませんでした。「ためになった」と、参加された方々からお言葉をいただきました。

「Waha! Transformer」の機能をグループで体験

事例発表の後は、お客様が4人1チームとなってジョブを作成するワークショップを行いました。今回は「Waha! Transformer V5」から追加された機能である「ジョブ実行ビューフィルタ」の操作を体験いただきました。初めてこの機能に触ったお客様もいらっしや、驚きの声も伺えました。コミュニティでは弊社から一方的に知識を伝えるだけではなく、お客様同士で気づきを共有できることも1つの特長です。

ワークショップ後の懇親会では、お客様同士でお話が大変盛り上がり、終始和気あいあいとした雰囲気で行われました。日常の業務や、近年注目されている働き方改革など、職場環境をよくするためのさまざまな取り組みについて活発に意見交換をされていました。

次回コミュニティは開催日が決定次第ご連絡いたしますので、その際は奮ってご参加ください。各製品担当SE一同、お待ちしております。



パートナー様ご紹介

人工知能 (AI) を活用した文字認識 (OCR) ソリューション「AIRead」

注文書、請求書などの書類上の文字をデータ化し、システム連携までをトータルでご提供! 手作業による入力の手間を大幅削減し働き方改革を実現!

日本は少子高齢化により労働人口が減少し、企業にとっては労働力不足への対応が喫緊の課題となっています。アライズイノベーションでは、企業における労働力不足を人工知能 (AI、機械学習、深層学習) が解決するAIソリューションを「Enterprise AI」と称して提供しています。AIを活用して支援できるソリューションをご提案し、労働力不足への課題解決に貢献します。

AI×OCR製品「AIRead」(エーアイリード) は、FAXや書類などの文字をAIが読み取りデータ化するソリューションです。印刷文字、手書き文字の読み取りに対応しています。読み取り項目の位置ずれやフォーマットの異なる類似の書類であっても、AIにより読み取りを可能としています。



ポイント 1 AIが文字やフォーマットを学習し読み取り精度を向上

ポイント 2 手動によるデータ入力のミスや工数を削減

ポイント 3 業務を円滑にし働き方改革を実現

AIによる文字認識・データ化で業務効率化

書類上の文字を認識しデータ化 (OCR)

「AIRead」は、プリンタなどで印刷された文字 (活字) を読み取り、データ化します。画像データを全文スキャンする形で読み取るため、事前に読み取り位置の指定は不要です。現在の読み取り精度は98~99%です。

また手書き文字の読み取り、データ化も可能です。2017年12月現在、手書きの数字の読み取り精度は96~99%です。日本語 (平仮名、片仮名、漢字)、アルファベットの読み取り精度は70%前後ですが、現在も機械学習により精度向上に努めております。

異なるフォーマットの読み取りに対応

従来のOCRソフトは、帳票のフォーマットごとに事前に読み取り位置の座標を指定しておく必要がありました。「AIRead」は、異なるフォーマットであっても読み取りたい項目を特定するキーワードを指定することで、キーワードに関連するデータを取得することができます。注文書や請求書など、取引先ごとに異なるフォーマットの書類の読み取りに対応できます。

誤判定した文字は学習して認識精度向上

「AIRead」が出力したデータは、閲覧・編集画面を用いて確認することができます (図1)。AIが誤判定した文字は、編集画面から正しい文字に修正することで正解データを学習させることができます。継続して運用していくことで、読み取り精度の向上が図れます。



図1: 閲覧・編集画面

ユニリタ製品「Waha! Transformer」と連携

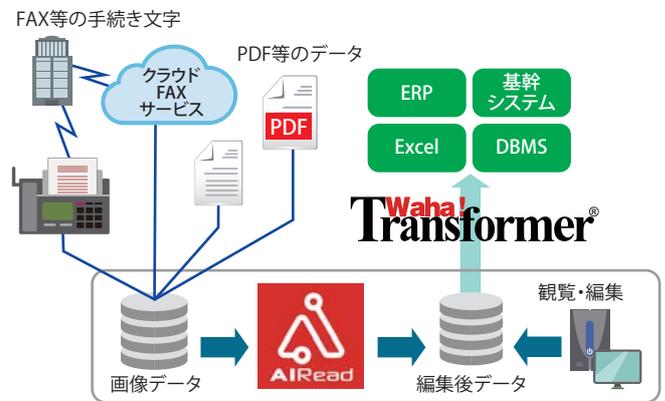


図2: AIReadとWaha! Transformerの連携イメージ

「AIRead」が読み取ったデータを既存システムに連携する処理に「Waha! Transformer」を活用することで、「AIRead」が読み取ったデータの整合性チェックからDB登録までを自動化することができます。例えば、注文書にある商品コードがマスタに存在しない場合や注文日付が想定範囲外の場合など、「AIRead」の読み取りが誤っている可能性があるデータはNGとするなど、データの整合性を判定することができます。これにより、整合性のとれたデータは、「AIRead」の読み取りからシステム連携までの一連の処理を自動化することが可能です。

アライズイノベーションは、「Enterprise AI」とユニリタの製品群を活用することで、働き方改革を実現するためのソリューションをお客様に提供していきます。

お問い合わせ先 **アライズイノベーション株式会社**
 TEL: 03-5534-9967
 Mail: info@ariseinnovation.co.jp

AIRead

検索



株式会社ユニリタ www.unirita.co.jp

本社 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟 TEL 03-5463-6383
 名古屋事業所 〒451-0045 名古屋西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル(1B48KTビル) TEL 052-561-6808

ユニリタグループ

株式会社アスペックス / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研
 備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ
 株式会社ユニ・トランド / 株式会社ユニリタプラス